

# Case Study

宝塚市教育委員会

## 校務環境のフルクラウド化実現を目指し データバックアップサービスで安心を担保

兵庫県南東部に位置する宝塚市は、南北に細長い市域を持つ自治体だ。市街地が広がる南部市街地と、豊かな自然に囲まれた北部田園地域から成る。こうした土地柄から、同市の大規模校は南部に位置しており、北部は学校数も少なく、小規模校が中心だ。2020年度末に GIGA スクール構想による 1 人 1 台端末の整備が完了し、2021 年から本格的な端末運用をスタートした。そうした中で並行して進められたのが、校務 ICT 環境の効率化だ。

### ■ 宝塚市教育委員会

所在地: 兵庫県宝塚市東洋町1番1号

教育長: 五十嵐 孝 氏

施設数: 小学校23校、中学校12校、特別支援学校1校

### 課題

Theme

GIGA スクール構想に伴い、校務の ICT 化を進めていた宝塚市。校務環境のクラウド化を進めていく中で、セキュリティポリシーを満たせるデータのバックアップが行えないことに課題を感じていた。

### 決め手

Decisive Factor

バックアップ基盤の設計や構築、保守などが不要で運用でき、バックアップ用途のストレージが無制限で使えることから、Microsoft 365 向けのデータ保護サービス「HYCU Protégé for O365」を導入し、運用をスタートした。

### 効果

Effect

HYCU Protégé for O365 を導入したことで、ユーザーのミスでデータを消去した場合でも簡単にデータを復旧することが可能となった。また監査にも対応できる機能を搭載しており、トラブル発生時への備えとしても有効だ。

### 校務のクラウド化を推進

2020 年度末に宝塚市で整備された GIGA スクール端末。それらの端末は授業の中で積極的に活用されている。一方、教員側の校務用端末は学習者用端末と異なり、学習者用ネットワークに接続できないことから、授業で利用できなかった。そのため、教員は複数のステップを踏んで教材を学習者用端末に保存するなど、手間が生じていた。

そこで宝塚市では、2022 年 9 月に校務用端末の刷新を行い、学習者用端末と同じようにタブレットとしても使えるコンバーチブル PC を校務用端末に採用。同時に、校務用と学習者用に分かれていたネットワークを統合し、校務用端末を職員室から教室に持って行けばスムーズに授業が行える環境を整えた。

こうした端末整備と並行して宝塚市が進めたのが、クラウドの活用だ。元々宝塚市では、教育委員会に設置されたセンターサーバーに各学校からアクセスする仕組みで運用していたが、2022 年 9 月の校務用端末のリプレースと合わせて教職員用のライセンスとして「Microsoft 365 Education A5」を新たに導入したのだという。宝塚市教育委員会 学校教育部 教育支援室 教育研究課 課長・指導主事 山口直人氏は「こうした端末活用や、クラウド活用を円滑化するために、販売店の Sky さまご協力の下、有識者を招いた研修なども実施しました。文部科学省の指針に基づくセキュリティポリシーを策定した上で、校務用端末は自宅に持ち帰りができるようにす

# Case Study

Takarazuka  
Board of education

## HYCU Protégé for O365 を導入するメリット

### Easy



導入が簡単で  
手間なく使える!

### Compliance



削除したメールも  
バックアップでき  
監査にも対応可能!

### Operation Management



運用・管理の  
負担を軽減!

るなど、クラウド活用を進めたことによって  
教員の柔軟な働き方が実現できています」  
と語る。

## ポリシーに基づくデータ運用

こうしたクラウド活用が進む一方で、リス  
クとして心配されるのがデータの扱いだ。ク  
ラウドというデータ消失のリスクは少ない  
印象を受けるかもしれないが、ユーザー自  
身のミスでデータを消去してしまい、それが  
復元できないといったトラブルも発生しやす  
い。そこで宝塚市教育委員会が導入したのが、  
「HYCU Protégé for O365」だ。

HYCU Protégé for O365 は、Microsoft 365  
向けのデータ保護サービスで、「Exchange  
Online」「Microsoft OneDrive」「SharePoint  
Online」「Microsoft Teams」などのデータを  
一元的に保護できる。

「文部科学省の指針に基づくセキュリティポ  
リシーを策定する際に、データ消失やランサ  
ムウェアへの対策が議題に上がりました。  
元々利用していたファイルサーバーのデータ  
は 200 万～ 300 万ファイルと非常に膨大で、

それらのデータをクラウドに移行して保護す  
る上で最適なサービスを探していました」と  
山口氏。クラウドサービスは可用性が高い  
一方で、データの消失まではカバーされて  
いない。また、山口氏が指摘したように万  
が一ランサムウェアが侵入した場合、クラウ  
ド上のファイル全てが暗号化されてしまう可  
能性もある。こうしたトラブルに備えるため  
には、バックアップサービスの導入は不可欠  
なのだ。

HYCU Protégé for O365 を同市に提案し  
た Sky ICT ソリューション事業部 システムサポ  
ート部 技術サブチーフ 畑 皓之氏は「バック  
アップ用のストレージもサービスに組み込ま  
れており、容量追加や管理の必要がない点  
がポイントでした。データは永久保存される  
ため、期間無制限で大容量のデータをバッ  
クアップできる点が宝塚市教育委員会さま  
の環境に最適だと考え、提案しました」と語る。  
また、バックアップ基盤の設計や構築、保  
守などの手間がなく運用できる点も、魅力  
的なポイントだと言う。

HYCU Protégé for O365 を導入した効果  
について、それらの管理を担っている畑氏  
は「例えば先生方がデータを誤って削除し

たり、その削除したデータが何か分からな  
かったりしても、スムーズに復元が行えるよ  
うになりました。特に SharePoint などは、検  
索が十分に機能していないケースもあり、  
HYCU Protégé for O365 上で検索すること  
で速やかに目的のファイルを探し出すよう  
な活用もしています」と語る。

## 教員の安心につながるシステムに

Exchange のメールがバックアップされてい  
るため、監査対応に活用できる点もメリッ  
トが大きい。山口氏は「生徒のメール機能は  
止めてありますが、教員と保護者間はメー  
ルでやりとりを行うため、そこで不適切な言  
動やトラブルが発生した場合でも HYCU  
Protégé for O365 であれば後追いが可能で  
す。万が一のトラブルに備えられるため安心  
できますね」と語る。

これらのバックアップデータは、教員が異  
動したり、退職して Microsoft 365 のライ  
センスが削除された後も残る。具体的にいつ  
までデータを残すか、といったポイントは今  
後議論していく予定だと言うが、当該教員  
が不在の状態でも必要なデータをサルベ  
ージできる環境があることは、業務上の安心  
感につながると言えるだろう。

宝塚市では今後、校務環境のフルクラウド  
化に向けてさらなる ICT 化を進めていく。山  
口氏は「単純に、『先生方がやっていた業務  
を ICT でできるようにしました』というだけ  
では、苦手意識がある先生などはなかなか  
じめません。宝塚市では Teams をフル活  
用し、校内会議や研修のペーパーレス化、学  
校を跨いだ教材の共有化を行い、『ICT を使  
うと業務が楽になる』と思ってもらえるよ  
うに、支援を進めていきます」と語った。

宝塚市教育委員会  
学校教育部 教育支援室  
教育研究課  
課長・指導主事

山口直人 氏



Sky  
ICTソリューション事業部  
システムサポート部  
技術サブチーフ

畑 皓之 氏

